



# 5.10に12回臨時委員会

## 過員攻撃粉碎→5.26三里塚総決起決定

「国鉄」をめぐる攻防が決戦状況を迎えている五月十日、勤労千葉は労働者福祉センターに委員、傍聴者百十名を結集し、第十二回臨時委員会を開催した。国鉄再建監理委員会は七月にも「分割・民営化」一十八万八千人体制を骨子とする本答申を打ち出そうとしており、当局と勤労「本部」革マルが一体となって常軌を逸した「過員対策」、「職場規律」攻撃を通して十五万人首切り攻撃を激化させてきている中で、敵をみさえ、攻撃を武器に転化し、積極果敢にうって出ること、そのためにも「5・26三里塚」へ勤労千葉が大部隊で登場しぬく方針を満場一致で決定した。

### 中野委員長が闘う 方向性を鮮明に提起

委員会は、山口副委員長長の「活発な論議で攻撃をはね返そう」との開会宣言で始まり、中村特執の資格審査発表をうけて成立が宣言された。議長に鶴岡委員（勝浦支部）が選出され、中野委員長のあいさつをうけた。

中野委員長は、「三本柱」「過員」を中心とする国鉄労働運動解体攻撃が、勤労「本部」革マルを手先に、監理委の七月本答申にむけエスカレートしている状況についてリアルに報告し、敵の迫力のまえに屈服を深める国労中央との対極で、攻撃の構造を見据え、原則的に闘うことにより攻撃をはね返してきた勤労千葉の路線の正しさについて提起し、国鉄と同様、決戦状況を迎えた三里塚に勝利するため、反動中曾根内閣打倒の必要性を訴えた。

### 勝利的総括にふまえた論議が集中

つづいて、「首切り『三本柱』」「過員対策」強行阻止闘争の経過と当面する取り組みについて「が布施書記長から提起され（「当面する取り組み」については次号で報告）、直ちに質疑応答に入った。質疑は、十名の委員、傍聴者から次の意見が出された。

- ① 勤労千葉の路線の正しさを確信し、「三里塚」国鉄を闘う労働運動」を拡大・強化すべきだ。
- ② 「余剰人員対策」の対応について、一步ふみこんだ考え方が必要ではないか。
- ③ 全組合員が雇用安定協約の重要性を再認識すべきだ。
- ④ 現在の状況を認識、把握したうえで警戒体制

を考える必要がある。

- ⑤ 「三本柱」を集約しても、あくまで反対との立場をはっきりさせていこう。
- ⑥ 「過員活用」は、勤労千葉の方針に確信をもち、怒りをもってこれと立ち向う方向性で現実対応していこう。
- ⑦ 「名雪問題」は絶対に許せない。断固として現場当局を追及していく。
- ⑧ 内勤の4名体制を取り組んでほしい。
- ⑨ 謀略的組織破壊攻撃に防衛体制を取り組んでいけるが、全体化にむけた大衆討議を深めたい。
- ⑩ 「カーテン」攻撃に対し、国労共闘を強化すべきだ。
- ⑪ 寮費値上げに反対し裁判闘争を闘っていききたい。
- ⑫ 国鉄労働者の闘う姿勢を示すものとして「5・26三里塚」を闘おう。
- ⑬ 労働者派遣法の撤回を求める方向を出すべきだ。

### 積極果敢にうってよう

以上の意見に対し、布施書記長さらに中野委員長の「『三本柱』集約を武器に転化し、積極果敢にうって出よう」との総括答弁をうけ、「経過」と「方針」を満場の拍手で圧倒的に確認決定した。委員会は、片岡執行委員が読みあげた闘争宣言を採択し、水野副委員長長の「攻めるも引くも全組合員一丸となって、夏から秋へ意気高く進もう」との閉会宣言をうけて、最後に、田中青年部長の音頭で組合歌合唱、中野委員長長の団結ガンバローをもって成功裡に終了した。

**5.26**  
二期工事阻止、不法収用法弾劾、東峰十字路裁判  
闘争勝利、脱落派粉碎一掃、  
**全国総決起集会**  
主 催 三里塚芝山連合  
空考 反対同盟  
正午・三里塚中一公園集合成田運転区10時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！